営　　　農　　　情　　　報

令和5年4月12日発行

第1号

浸種中の水温管理にご注意ください！！

現在、移植水稲種子の浸種が開始されています。浸種中に気温が高くなったり、直射日光が浸種中の水に当たってしまうと水温が高くなり、予期せぬタイミングで発芽してしまう可能性がありますので今一度、水温の確認を行い、下記事項に留意してください。

《浸　種》

・平均水温は11～12℃とし、日数は5～6日です。
・水温が高いと浸種中に一部で発芽してしまいます。
・水温が低いと籾が十分に吸水出来ず、出芽ムラの原因となります。
・酸素補給の為、2～3日おきに水を取り替え、籾袋の上下を交換しましょう。

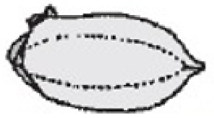

図１　催芽の程度は
ハト胸～２㎜まで

《催　芽》

適温は30～32℃、20時間程度を目安とします。15時間過ぎたら1時間ごとに催芽程度をチェックしましょう。

◎育苗ハウスの温度管理に向けて

4月下旬はイネ育苗の出芽期ですが、最高気温が20℃になったり、最低気温が0℃以下になるなど気温変化が大きい時期です。置床設置時に必ず温度計を設置し、正確な温度把握に努めて下さい。
※出芽までは、25～32℃をたもつようにハウスビニールを開閉して調節しましょう。
※35℃以上にならないよう注意してください。

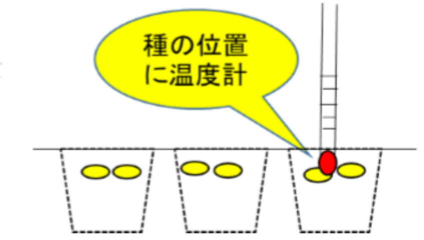

図２　出芽までは籾位置に温度計を設置

ＪＡみねのぶ営農推進協議会
TEL 0120-67-2334　FAX 0126-67-2803